

\*「ポレーシエ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



# No more Fukushima!! No more Chernobyl!!



東北関東大震災は、2万人を越す死者と行方不明者を出し、なお進行中である。亡くなった方々、遺族の皆さまの心情を思うと、言葉もない。この災害をいっそう深刻にしているのは、福島第1原発事故である。「地震列島に原発は危険」と永年叫びながら、それが現実になった今、未然に防げなかった無念さに、ただ呆然とするばかりである。原発の危機は、事故から2週間経った今なお、進行中であり、今後の推移は予断を許さない。今回の事故を、予想を越えた地震と津波のせいにはできない。過去に事例はあったからだ。「大事故は100万年に一回」と言い、原発推進を続けて来た政府と電力業界、原子力

産業、それを後押ししてきた学者達の、無能と怠慢による人災である。放射能の影響は、今後長く、被災地の人々や事故処理にあたる人々を、苦しめることになろう。それが、この21年間チェルノブイリ救援を続けて来た私たちの教訓である。私たちは、この悲劇を新たな日本復興の梃子(てこ)とし、困難に立ち向かわなければならぬ。エネルギーの浪費を改め、原発に依存しない持続可能な社会を目指して、立ち上がろう！  
(河田)

〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 地下1階

**NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部**

銀行 名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部(店番号 150)

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部 理事長 小牧 崇

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-732-7172(月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chemobyl-chubu-jp.org>

————— 何が異なり何が似ているのか —————

3月11日に発生した、マグニチュード9の地震と高さ14メートルの大津波は、原発の安全神話を完全に崩壊させた。チェルノブイリ事故以来、脱原発に向かってきた世界が、地球温暖化対策という名目で、再び原発推進に向かおうとしていた矢先のこの事故は、世界に新たな持続可能エネルギーへの道を歩ませるかもしれない。それに失敗すれば、第3のチェルノブイリが世界を襲うだろう。今回の福島原発事故から、我々は何を学ぶべきか。

### ● 事故の原因

原発の重大事故につながる原因は、2つある。チェルノブイリで起こった核反応の制御失敗による「暴走」は、一瞬にして炉心を破壊した。スリーマイル島原発事故は、炉心冷却に失敗し、部分的な炉心溶融を起こした「メルトダウン」と呼ばれる。

今回の福島第1原発の事故は、そのどちらとも異なるプロセスを辿っている。地震と津波による冷却装置破壊で、原子炉ばかりでなく、使用済み燃料保管プールの冷却喪失にも及んだ。その結果、炉心でも燃料プールでも、燃料棒が水面から露出し、高温の蒸気と燃料棒被覆管(ジルカロイという金属)が反応して、水素が発生し爆発した。壊れた燃料棒からは、大量の放射能が漏れ、水蒸気とともに外部に放出された。東京電力は、冷却装置を修復しようとしているが、高い放射能レベル下での作業は困難であり、圧力容器と格納容器を破壊から守るために、次々と、放射能を含む蒸気を外部に垂れ流し続けている。それ事故から2週間たっても放射能放出が止まらない原因である。加えて、4基同時に電源喪失に見舞われ、中央制御室の停電や様々な計器・ポンプも破壊され、炉心の状態が把握できず、何が起きているかがわからないまま、推測で放水や注水を繰り返している。

こんな例は、世界中でかつてない。メルトダウンを起こしたスリーマイルでさえ、制御室は動いていたので、最悪の事態を免れたのだ。

### ● 放出放射能と環境汚染

チェルノブイリ事故で放出された放射能は、ソ連政府発表では、総量で $8 \times 10^{16}$ ベクレルだった。クリプトン85やキセノン133などの放射性希ガスの100%、人体に最も影響を与えるセシウム134と137、ヨウ素131などは、20~23%放出された。「実際はこれを上回る」という研究者もいる。今回の福島原発事故でどれほどの放射能が放出されたかは、事故が収束し調査が終らなければ分からないが、炉心はかなり損傷していること、放出期間が長いことを考えれば、希ガスやヨウ素・セシウムなどの揮発しやすい放射能は、チェルノブイリに匹敵する恐れもある。オース

トリアの気象当局は、観測された放射能から、事故後3~6日間に放出された放射能は、チェルノブイリの20~50%と推定している。何れにせよ、福島県を始め、茨城・埼玉・宮城などの近隣からは、基準を大幅に越える野菜や牛乳・飲料水が検出され始めた。原発から約200km離れた東京でも、水道水からkgあたり200ベクレルを超えるヨウ素131が検出され、幼児への摂取制限を発動せざるを得なくなった。政府は、慌てて食品の暫定基準を決めたが、それは国際的にも極めて甘い。「はじめから事故ありき」の基準と言われても仕方がない。セシウム137は、飲料水・牛乳等が200ベクレル、野菜などの食品が500ベクレルである。特に野菜のヨウ素131の基準はkg当たり2,000ベクレルとされたが、これはECの500ベクレル、アメリカの170ベクレルと比べても極めて高い。食品や飲料水・牛乳などは、内部被曝の原因であり、空間線量による外部被曝とは影響が大きく異なる。政府が依拠しているICRP(国際放射線防護委員会)の基準は、「内部被曝の影響を重視しておらず問題だ」と、ECの学者等は批判している。ウクライナの汚染地域の被曝の60~70%は内部被曝であり、ウクライナは事故後基準を大幅に下げ、セシウム137の基準は、飲料水はkg当たり2ベクレル、野菜が70ベクレル、肉や魚は200ベクレルである。これは、放射能の被害に学んだ結果である。

### ● ホットスポット

汚染はまだら模様である。福島原発から北西40kmの飯館村周辺では、極めて厳しい土壌汚染が検出された。1kg当たりの土壌中のヨウ素131が117万ベクレル、セシウム137が16.3万ベクレル、という。周辺の雑草からは、265万ベクレルという驚異的な値のセシウム137が出ている。今後の推移が懸念される。(河田)

# 【声明文】

浜岡原子力発電所の即時停止をもとめる

2011年3月 チェルノブイリ救援・中部 運営委員一同

2011年3月11日、東北・関東地方を襲った巨大地震と大津波により、福島原子力発電所で、人類史上初めての同時多発の重大事故が発生した。地震国日本において、原子力発電所が最も優先して考えるべき「地震」と「津波」に対する無策が、電力会社・政府・マスコミのいう「想定外」の天災規模により、いまだかつてない原発の重大事故を引き起こした。事故への対応は迷走し、現場では作業員の被曝線量を総量100ミリシーベルトから250ミリシーベルトに引き上げるという暴挙により、作業員は強烈な被曝を余儀なくされながら事故処理に当たり、また、ずさんな線量管理により、若い作業員が重篤な被曝をし、倒れた。事故の収束のメドはたたず、大量の放射性物質を環境にばら撒いている。その放射能の被害は日増しに拡大し、居住地からの避難、乳幼児の水道水摂取制限、農産物・畜産物に対する出荷制限が次々と出され、生活が破壊されつつある。放射能の汚染の中にいる全ての人々、とりわけ子ども達や妊産婦の健康が脅かされている。

政府・東電・自治体は、正確な情報を発信し、汚染の拡大に伴った避難場所の確保を行い、これら被災者の生命を守る義務がある。東日本大震災による「福島原発事故」は、私達に、電力会社や国の言う「想定外」は、「想定を放棄してただけである」ということを教えた。そして、虚偽の安全思想を盾に、原発を推進することによって起こされた、「人災である」ということを教えた。

浜岡原子力発電所は、今日来ても明日来てもおかしくない巨大地震「東海地震」の震源域の、震源断層上の真上に位置する。はたして、東日本大震災・巨大津波以上の「想定」を、この原発にしているだろうか。否である。だから、今止めなければならない。私たちは、浜岡原子力発電所の即時停止をもとめる。巨大地震は、必ず来る。これ以上の悲劇はいらない。

これから始まる『事故』・・・私たちの選択は？（中川 徹）

2011年3月11日は、歴史に深く刻まれる日となった。24日現在、死者、行方不明者は25,000人を超えたという。亡くなられた方々に心から哀悼の意を、被災者に心からのお見舞いを申し上げる。

映像で見る自然の猛威はすさまじい。そこに、原発事故の惨状が次々とくり広げられた。これは人災である。自然の猛威に対して呼びさまされる、動物的な恐怖・かしこみとは異なるいらだちにとらわれる。

M(マグニチュード)9.0は、確かに巨大地震である。1960年に発生したM9.5のチリ地震に並ぶ(エネルギーの差は約6倍)。しかし、過去50年遡れば、M9以上の地震はチリ地震を含めて5つある。

しかも、すべて環太平洋造山帯、つまり日本周辺で起こっている。「未曾有」とか「日本歴史上経験したことがない」といった発言は言い訳に過ぎない。津波高も、93年の北海道南西沖地震で30m、33年の昭和三陸津波では28m、1896年の明治三陸津波では38mである。今回の事故で、何より驚き信じられない事は、1～6号のすべての原子炉建屋で、鉄扉を破って建屋内に大量の海水が浸入したことだ。おそまつとしか言いようがあるまい。このため、すべての非常用電源がダウンした。また、事故の対応についても、「外部電源復旧」とか「非常時電源の立て直し」など、「電源復旧」を優先しなかったことは理解しがたい。事故の進展を甘くみていた可能性が強い。原発メーカーとして、それぞれ60人の技術者を現地に送り込んだ日立・東芝、そして東電スタッフも含めて、事故収束過程の迷走をみる時、寒心に耐えない。

中電の浜岡原発はどうか。福島原発事故のケースに比べて、浜岡原発が優位であるという条件は見出せない。今回のM9.0は、M8.0と予測されていた。M8.0～8.5と予測される東海地震は、予測に収まるのか。震源域の真ん中に立地する浜岡原発では、短周期地震動が強い。これは、原発の耐震性に不利である。中電スタッフが東電スタッフに特別に優るといふ根拠はない。津波の想定では、浜岡原発で遡上も含めて6mと評価している。福島原発の想定は5.7mだが、今回は14mであった。東海地震の予想震源域の真ん中に原発をもつ「中電」がとりうる責任ある行動は、「浜岡原発を止めること」、そして、今回の事故評価を踏まえ、「原発の今後について、国レベルの再検討を開始するよう主導すること」である。

## 【ウクライナから届いた激励のメッセージ

[ホステージ基金から]

2011年3月14日

親愛なる日本の友人の皆さん！

私たちは、日本を襲った巨大な惨事に際して、純粋に人間としての同情の意を表させていただきたいと思ひます。皆さんが支援してくださっている人たちは、毎日のように私たちに電話をかけ、皆さんがご無事かどうか尋ねてきます。私たちは皆、インターネットでその後の経緯を追い、ニュース番組を視聴しています。(こちらでは、24時間放送のTV局があり、30分おきにニュースを放送しています。)

当基金の運営委員たちも皆、哀悼の意を表しています。ボリス・チュマク氏、ナロジチ町「お陽さま」幼稚園職員一同、ナロジチ地区議会、ナロジチ消防署、ナロジチ地区の住民、その他多くの友人たちから電話電報を受け取っています。

彼らは皆、皆さんの不幸をわが事のように受け止めています。そして、チェルノブイリを体験した私たちにとっては、この災害は特に身にしみて理解できるものです。

皆さんを支援するために、私たちに何ができるでしょうか？ その問題が今、私たちすべての心を悩ませています。私たち自身の問題は背景に退いています。

今重要なのは——日本のことです！

皆さんがいつもクリスマス・カードに書いてくださるように、私たちも今、皆さんに「がんばってください！」との言葉をお送りします。

深い敬意を込めて 数多くの友人たちに代わって

「ホステージ基金」 V.S.キリチャンスキー  
E.E.ドンチェヴァ

[チュマク氏から]

2011年3月14日

日本国「チェルノブイリ救援・中部」御中

親愛なる友人の皆さん！


もし、皆さんのご支援と、友人としての深い関わりがなければ、ジトームル州の多くの人々、そして誰よりも、チェルノブイリ事故の事故処理業者である消防士たちの暮らしがどうなり、健康状態がどのようになっていたことか、想像するのは困難なことです。皆さんに、心より感謝申し上げます！

天災が皆さんの国を襲ったこの時、私たちの心からの哀悼の気持ちをお受け取りください。私たちの心と思ひは、皆さんとともにあります。私たちは、皆さんの悲しみを分かちあっています。

慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」、ジトームル州の元消防士たちは、この困難な時にあたり、皆さんと皆さんの国に、進んで応分の援助とサポートをさせていただきたいと思ひます。

慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」代表 B.O.チュマク





## 特集!!

# 放射能をできるだけ避ける！

## — 福島原発事故・緊急避難マニュアル(P5~P8)

### <原発事故からの避難>

チェルノブイリ原発事故から14目年の2000年4月、「もし!? 浜岡原発で放射能漏れ事故が起きたら、そのときあなたはどうしますか?」という原子力事故の防災訓練(ポレーシエ No.56 参照)を行いました(チェルノブイリ救援・中部の有志など「原子力防災・市民ネットワーク」主催)。これは自主的な防災訓練で、浜岡原発での事故発生、名古屋を風下と想定して、アースデイ名古屋会場の公園に避難所を設営し、実際に原発の地元静岡県民を始め各地の市民が避難しました。今回は、巨大地震と津波、そして現実となってしまった「福島第一原発事故」により、多くの被災者の方々が不安の中にいますが、今からでも遅くはありません。できるかぎり放射能から身を守る努力をしましょう。

### <チェルノブイリ事故被災地からの教訓>

これまで私たちがチェルノブイリ被災者の支援をしながらわかったことは、放射能の被害は、風下の地域で、雨が降ったところ、雨等の流れが集まることなどにスポット状に広がり、点在していることです(火山灰の広がりと同じ)。それゆえ、行政・研究機関・市民団体等の正しい情報を入手し、できるだけ冷静に行動しましょう。今後の事故の推移を見守りながら、放射能をできるだけ避ける自衛方法、避難の心構えや持ち出し品の準備しておくことは、実際に避難する場合に役に立つと考えます。正確な情報と備えがあれば、パニックを起こさず放射能に対処し、可能な限り身を守れます。

### <避難の考え方、方法>

上記の防災訓練の経験や石川県での原発防災訓練の報告ほか、(認定 NPO)原子力資料情報室などの資料による避難の考え方、方法を紹介します。

●自分の住む地域の環境放射線量を知る⇒各都道府県がモニタリングデータを公表。

放射能は風下に薄まりながら広がっていく。

●風向き・風速を知る⇒放射能は風によって流れるので、風向き・風速により避難する方向を考える。

●雨や雪にあたらぬ⇒できるだけ外出を避ける。マスク、フード付きの服、傘などで、直接あたらないようにする。

●晴れた日でも⇒外出は短く、マスク、帽子・フード付の服を着用する。

●帰宅したら⇒外出時着用したコート・ズボン等を玄関等で脱ぎ、部屋に持ち込まない。

### <放射能被曝>

できるだけ ①離れる ②時間を短くする ③身に付けない(体の中に取り込まない)

① 外部被曝…身体の外に放射性物質があって、それからの放射線を浴びること。皮膚をできるだけ露出しない。

② 内部被曝…身体の中に入ってしまった放射性物質から出る放射線を浴びること。呼吸から、傷口から、食物から、水から入るため、できる限り取り込まない。

### <放射能から遠ざかる>

屋内退避か、避難か?

・自身や子孫に影響がないとされる放射線の量が、1000 マイクロシーベルト(=1 ミリシーベルト)／年≒0.1 マイクロシーベルト／時間 とされている。

- ・一つの目安として、屋内退避:約 2 マイクロシーベルト／時間、  
避 難:約 9 マイクロシーベルト／時間  
この状態で約3か月暮すと、積算線量20ミリシーベルトになります。  
(政府の基準は50ミリシーベルト)

**屋内退避のとき**・・・屋内に放射性物質の侵入を防ぐ。屋内は屋外に比べ被曝は 1/2～1/3 少なくなる。

- ドア・窓はしっかりと閉め、隙間はガムテープでふさぐ。コンクリートの建物のほうがよい。
- 換気扇・エアコンの使用は厳禁。
- 食品にはラップをして、冷蔵庫へ入れる。
- 飲料水を密閉容器に入れる。ペットボトル・ポリタンク・浴槽などに水を張っておく。

**外出しなくてはならないとき**・・・できるだけ短時間に。花粉症対策に似ている。

- 長袖、長ズボン、手袋、靴下を着用し、肌を出さない。ほごりの付きにくい衣服でおおう。
- 帽子、マスク(濡れハンカチを折る、濡れタオルなど)、ゴーグル着用。

**外出から戻ったとき**・・・屋内へ放射性物質を持ち込まない。

- 外・玄関で衣服を脱ぎ、ビニール袋に入れる。
- うがい、手洗い、シャワー・入浴、洗髪する。

**子どもがいるとき**

- 放射性ヨウ素 131 は、特に子どもが体内に取り込みやすいため、なるべく早く(被曝する前か被曝直後に)ヨウ素剤を飲ませる。被曝して時間が経過するほど効力がなくなる。

**ヨウ素剤は**

- ・あらかじめ薬局でヨウ化カリウム錠を買うか、場合によって行政から配布される。
- ・副作用を起こすことがある。
- ・ヨードチンキは飲んではいけなない。

**食物の放射能汚染**

各地で暫定基準を超える値が検出されていますが、たとえば葉物野菜はできるだけ避け、根菜類を摂取すること、野菜ジュースをとるなど工夫もできます。

**避難するとき**・・・なるべく早く・遠くに避難する。

- 避難の方向は、風向きに直角な方向が原則だが、風向きの変化に注意。
- 避難用防災用品を持ち出す。
- 冷蔵庫以外のスイッチを切る。
- ペットのためのえさ・水を置く(ペットは避難所に連れて行けない)。
- 窓は全部閉め、玄関の鍵はかけない(後から避難してくる人の休息のため。みんなが助かる精神)。
- 自動車で避難するときは、窓を閉め、通気口を塞ぎ、エアコン・ヒーターは切る。
- できるだけ隣近所の人と乗り合わせる。
- 渋滞で車を乗り捨てるときは、ロックせずキーはつけたままにする。

- 避難先を家族で確認しておく(最終集合場所、はぐれたときの第 1、2 連絡先)。

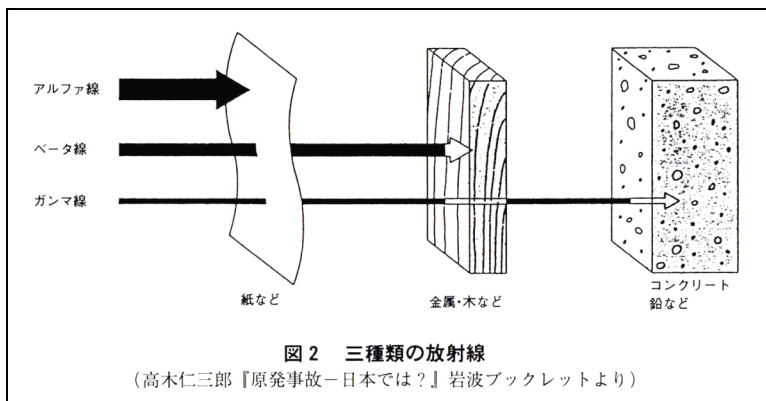
### 放射能は見えない、色がない、匂わない、味がしない、聞こえない(検知器の音のみ)

今回の福島原発事故は、核分裂による事故ではないが、原子炉の燃料棒や使用済み燃料が熱で溶融して損傷し、放射性物質が外部へもれ出ています。

**放射性物質**・・・(放射性＝放射線を出す性質)アルファ線、ベータ線、ガンマ線が知られる。放射線のエネルギーは非常に強く、生きものに当たると、生きものを形づくる物質の分子が放射線で傷つけられ、修復できなくなると、生きる働きが弱る。目に見えない分子の世界での反応がもとになって、生命への被害が現れる。放射線の種類により性質が異なる。

- ・アルファ( $\alpha$ )線・・・粒が大きく遠くまで飛べない。紙 1 枚でも止まるが、当たるとダメージが大きい。
- ・ベータ( $\beta$ )線・・・粒が小さいだけ通り抜けやすいが、1cm ほどの厚さのガラス・プラスチックにぶつかると止まる。セシウム 137、ヨウ素 131 等から放出される。
- ・ガンマ( $\gamma$ )線・・・紙やガラスは通り抜け、10cm ほどの鉛・コンクリートでなければ止まらない。 $\gamma$  線が分子にぶつかると電子が飛び出し次々傷つけ、外部被曝が問題。

### アルファ線、ベータ線、ガンマ線図



**避難時の持ち出し品チェック**・・・避難用リュックを用意しておく。

- 現金・クレジットカード、保険証、免許証、通帳・印鑑他重要書類。
- 救急・常用する医薬品、ヨウ素剤(手に入れば)。
- マスク、せっけん・タオル・洗面用具、お手拭ティッシュ。
- 乳児用粉ミルク、オムツ、お尻拭き等。
- 携帯用ラジオ、懐中電灯、予備の電池、マッチ、ろうそく、線香(風向きを知る)。
- 放射能測定器(あれば)、地図、コンパス、筆記用具。
- 水・非常食 2～3 食分(一人)。缶きり。簡単な食器。
- 着替え 3 日分(一人)。
- 傘、雨がっぱ、ゴム長ぐつ、ゴム手袋、ゴーグル、ガムテープ。
- 寝袋、ビニールシート。

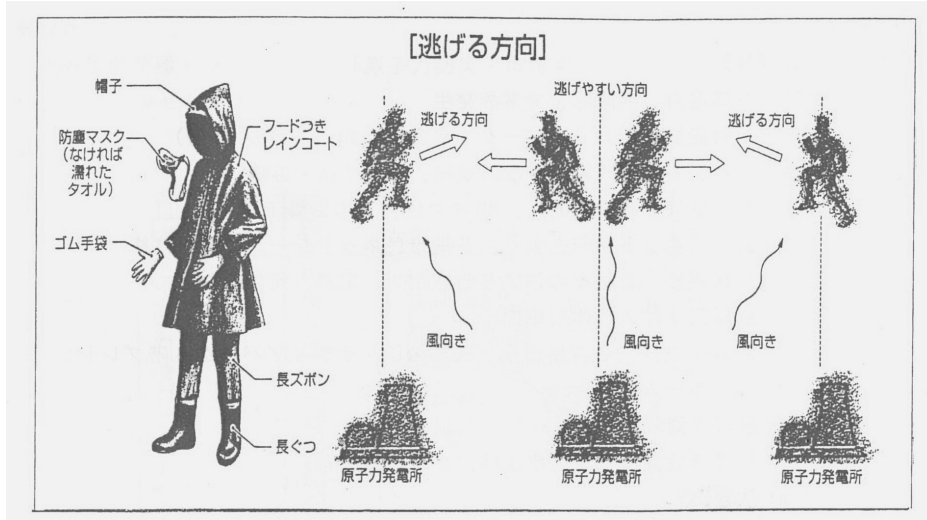
### 放射能測定器

個人的に放射能測定器を所持している人は少ないかと思いますが、ネット上でもいろいろ測定値が公開され

ていますので、情報収集し、友人・知人と情報交換してください。

チェルノブイリでは、現在ウクライナのカウンターパート等の協力を得て、放射能測定器をまとめて入手しようとしています。その上で、個人対象ではなく有効利用できる体制作りを考えています。

### 避難時服装と逃げる方向の図



参考資料:

『原発防災を考える—自治体の責務とひとりができること』山本定明著 桂書房 1993

『原発事故の起きる日—緊急避難はできるだろうか』山本・淡川著 技術と人間 1992

『原発事故…そのときあなたは!』瀬尾健著 風媒社 1995

『原発事故—その時あなたはどうか!?』日本科学者会議福岡支部編 合同出版 1989

『食卓に上がった死の灰—チェルノブイリ事故による食品汚染』原子力資料情報室 1987



## 2月ウクライナ代表団派遣 報告 (原 富男)

2月代表団派遣は、2月4日から10日間の日程で、河田・宮腰・竹内・原が訪問しました。

今回の訪問先は、ジトームルでは、農大・州行政・12番学校・ホステージ基金、ナロジチでは、地区行政・病院・「菜の花プロジェクト」セミナー・ラスキ村バイオガス装置などでした。特に印象に残った事を報告します。

### 1、農大ディードゥフ氏との話し合い 分析結果は6月

「菜の花プロジェクト」で肝心の「汚染土壌の浄化実験」は、農大に依頼し3年分のデータが得られました。このまとめは、



今年6月にでき上がる予定です。栽培実験が一巡し(輪作障害を防止するため、今年ではじめて同じ場所での2度目の栽培を行う予定であるため)、ナタンによる土壌浄化がどのように促進されるのかが、今年わかることになります。種子中の菜種油の割合は重量で42%、農大の3回搾りのできる搾油機では36%の油を絞れたとのこと。我々のステーションで使っている搾油機では効率が悪く22%しか搾油できず課題です。また、最終的にバイオガス排出液中に残る放射性物質は、ゼオライトなどの吸着材で捕獲し、保管することになります。吸着実験は、キエフの放射線学研究所に依頼中で、そろそろ結果が出ます。

### 2、「菜の花プロジェクト」セミナー

ナロジチ公民館で、地区関係者のセミナーが開かれました。この催しは、スイスの財団の補助金も得て、マスコミも含め80名程が集まりました。地区行政・農大・ディードゥフ氏・河田さんなどが報告し、地区内にある「ラスキバイオガス装置」と「BDF装置」見学も組み込まれたセミナーとなりました。僕としては、一番寒い時期のバイオガス発生が気がかりだったのですが、大勢の見学者の前で、ガスは元気に「きれいな青い炎」で燃えていました。現地でのバイオガス世話人リョーニャ氏は、大勢の見学者を前に、堂々と説明していました。バイオガスを知らなかった時には解らなかったことが、いまようやく解り始め、「自分の家にも作ってみたい」とのことでした。

バイオガス関係では、今後圧力関係と廃液処理(放射能の吸着)が残されています。今年はこの2点を仕上げ、来年、完全な形のモデルとして、現地側に引き渡したいと思います。

### 3、高まるプロジェクトへの関心

今回の訪問で感じられたことは、プロジェクトへの関心が高まっていることでした。

この4年間の現地側の反応は、個人的にプロジェクトに関心を示す人はいたのですが、その内容をしっかり理解している人はいませんでした。ところが今回は、予定外ですが州知事に招かれ会談し、その模様がテレビで放映されるということもありました。州知事は農学博士でもあり、ルピナスが放射能吸収植物であることなども述べ、今後の汚染地域の復興に大いに関心を持ち、後日、実務的な話を副知事ともすることができました。昨年、キエフで牛4,000頭の糞を使ったバイオガス装置が運転を開始し、今年秋には、ジトームルでも原料1日60トン、発電量1,063kWのバイオガス装置の稼働が予定されていることから、その関心は現実的になっています。

### 4、福島原発事故

福島原発の事故は予想されていたものの、同時に多数の原発が事故にみまわ

れるとは、思いもよませんでした。最悪のシナリオが進行しています。たとえ事態が現状で終息したとしても、多くの課題が残されるでしょう。皮肉にも、「菜の花プロジェクト」を日本でも行わなければならなくなったのです。原発依存をやめ、汚染を食



い止めることが私たちに求められています。

## カードキャンペーン 現地からのお礼の声

12月末、日本からたくさん子ども達や学校の生徒たちの想いがつまった、2,700通あまりのクリスマスカードをウクライナに送って、3ヶ月が立ちました。そして、今年の2月派遣訪問時に、ウクライナの子ども達を書いてくれた絵の具や色鉛筆で描かれた絵画や、絵画を施した木皿、切り絵、ポップアップカード、学芸会などで使う数体の人形、テーブルクロス、手紙、子ども達の手型でいっぱいメッセージカードなど、たくさんの想いを受け取りました。今回の作品の多くは、ジトームル第12番学校の低学年から高学年の生徒たちが作成したもので、約150以上の作品があり、ひとつひとつじっくり見ても飽きないほど、色とりどりで素晴らしい絵画ばかりです。ウクライナのウクライナの子ども

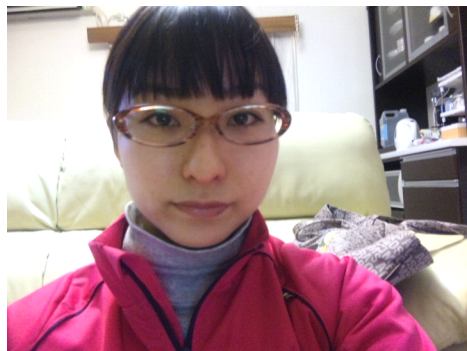


＜お返しに届いたウクライナの子ども達からのカード  
(2011.2月)＞

達から受け取ったものの中には、日本の子ども達と文通を希望する子が多く、クリスマスカードを贈ってくださった学校や子ども達に、文通希望の方を募集しました。その後、多くの方々からお返事があり、仲介役として紹介しました。文通を通して、ウクライナと日本の子ども達が交流できればと思います。また、第12番学校から“国際交流を通じて、弱者の救済をともにやりたい”という希望が寄せられました。

子ども達が作成した作品は、カードキャンペーンに協力してくださった学校や個人の方々に、カードをプリントしたものと、第12番学校からのお礼状などを同封して届けました。受け取った子ども達からは、『とてもうれしい。絵がとっても上手！また今年も書きたい！』などという声がありました。

20年も続くクリスマスカード・キャンペーン!! 今年は日本からウクライナへ、そしてウクライナから日本へと、お互いの想いを届け合うカードキャンペーンにしたいと思っています。 (梨恵)



## 自己紹介(兼松 真梨子)

みなさま、はじめまして。このたび、会計スタッフとして「チェルノブイリ救援・中部」で働くことになりました、兼松真梨子と申します。

まずは、先日の東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

今、原発の恐ろしさをひしひしと感じております。まさか、働き始めた矢先にこんな事になるなんて、思ってもみませんでした。私は、チェルノブイリ原発事故が起こった時はまだ2歳くらいで、事故のことは教科書で少し知っている程度でした。もし、「チェルノブイリ救援・中部」で働く機会がなかったら、何も考えずに過ごしていたかもしれません。そう考えると恐ろしいことです。

私は、名古屋NGOセンターが主催する「NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ」(通称Nたま)の研修を、ちょうど1年前に修了し、ずっと社会の役に立てる仕事がないという想いを抱きながらも、なかなか働ける場所が見つからずに悶々としていましたが、こうして「チェルノブイリ救援・中部」で仕事をする機会がめぐってきました。半人前の私に何ができるのかわかりませんが、精一杯、自分にできることをひとつずつやっていきたいと思います。

好奇心が旺盛で、何でもやってみたくなる性分なので、色々なことに挑戦していきたいと思っています。一日も早く、会計スタッフとして一人前になれるよう頑張りますので、よろしくをお願いします。

好奇心が旺盛で、何でもやってみたくなる性分なので、色々なことに挑戦していきたいと思っています。一日も早く、会計スタッフとして一人前になれるよう頑張りますので、よろしくをお願いします。

## 竹内さんのウクライナ便り

キエフの3月11日午前、私は日本大使館で行われていた日本語・日本文化研修留学生希望者の面接に、面接官の一人として臨席していたのですが、「日本に留学する場合、生活面での不安などはありませんか？」との質問に、「特にありませんが、今日東北で地震が起こったそうで・・・」と答えた学生があり、TVのニュース番組等をふだん見ていない私として、それが震災について得た最初の情報でした。正午頃、面接が終わり大使館を出ると、以前日本に何度も招聘されて「チェルノブイリ・チャリティ・コンサート」を行っている少女合唱団の指揮の先生から、私の携帯に電話がかかり、「私たちの知っている皆さんは無事だろうか」とのお問い合わせでした。

それから数日、日本に何らかの縁のある方々から、次々にお見舞いや問い合わせの電話がかかり続け、それへの対応、ネットでの地震関連のニュース把握、日ウ間のメールのやりとりの翻訳で、どんどんと時間が過ぎていきました。チェルノブイリ被災者の方々にとって、福島原発の周辺で起こっている事態は文字通り他人事ではなく、皆さん深く心を痛めておられる様子が、電話を通じても伝わってきます。ある週刊誌では、被災者団体である「ウクライナ・チェルノブイリ連盟」代表のアンドレーエフ氏(元チェルノブイリ原発職員・事故処理作業員)の、福島原発事故に関するインタビュー記事が載っていました。

20日には、キエフのウクライナ日本センターがネットで呼びかけた、震災被災者に連帯して励ます趣旨の「がんばれ！日本」というフラッシュモブ(という言葉が日本でどれほど普及しているのかわかりませんが)に参加してきました。キエフ市役所前の歩行者天国の通りで、センターが用意した赤いスカーフを参加者が頭につけて丸く集まり(日の丸の赤い部分を表現する?)、やはりセンターが用意した白い折鶴に各自がメッセージを書いたものを掲げて、「がんばれ！日本」を三唱し、次いでウクライナのバンドの有名曲「希望はある」をアカペラで合唱するというものでした。参加者の多くは、同センターを利用しているアニメ同好会



などの若い人たちでしたが、小雨のぱらつく寒い天候にもかかわらず、参加者は450人ほどに達したそうです。通りすがりかと思われる老婦人のグループもありました。

そして翌21日、ジトーミル州ラジオ局の夕刻の生放送番組に出演してきました。おそろく連時代から更新されていない古ぼけた設備のスタジオに入ったのは、「チェルノブイリの人質たち」基金のキリチャンスキー氏・ドンチェヴァ氏と竹内、パーソナリティーの女性。30分番組で、私は大したことはほとんど話せなかったのですが(これまで協力してきた方々からの励ましに感謝している、というくらいで)、キリ氏らが「日本の被災者支援、特に放射線測定器を提供するための募金を開始する」と話しました。リスナーからの電話では、「これまで日本からジトーミル州にいただいた支援にお返すため、州民一人一人が10グリヴナずつでも寄附すべきでは」という男性の声もありました。

さらに24日には、ナロジチでフランス国营TV局の「ナタネプロジェクト」に関する取材があり、私はディードゥフ氏・ドンチェヴァ氏らと現地を案内しました。「日本人として、チェルノブイリの経験が今回の福島での被災に際し役立つと思うか」とフランス人の記者に聞かれ、「土地の汚染・食品の汚染と内部被曝という経過は、これから日本で起こり得ることであり、その予測と対策にチェルノブイリで得られた知見は役立つだろう」と答えましたが、そう話しながら、胸がきりきりと痛むような思いでした。

(3月25日)

## 事務局便り

東日本大震災、福島原発事故の被災者の皆様、そしてポレーシェ読者で被災された皆様、心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方のご冥福と、ご家族の皆様にお悔やみ申し上げます。

巨大地震・巨大津波そして原発苛酷事故。筆舌に尽くしがたい事態が起こった。痛恨の極み。無念。虚脱感。鬱々とした思いが押し寄せる。事態は、収束とはほど遠いところで迷走している。しかし、その過酷な災禍の真っ只中で暮らすことを余儀なくされた人々がいる。すぐそばにその人たちはいる。あまりにも激しく出続ける放射能。これについて、できるだけ正確な情報を得てほしい。チェル救は、そのために何かできないかと考えた。正確な情報を発信したい。そして、「放射能測定器を被災地の人々に贈ろう」と決めた。私達が支援していたウクライナの人々が、「そのための募金を開始する」と伝えてきた。日本では今なかなか入手できないので、ウクライナから届けてもらうよう依頼した。…なんということか。立場は逆転してしまった…。しかし、この日本で、重大な原発苛酷事故は本当に起きてしまったのだ。被災地の子ども達を守るために、大人たちがその道具を使って役立ててほしい。チェル救でも、募金を開始する。 (山盛)

☆郵便振替用紙に「測定器募金」と明記して振込みをお願いします ☆

## 本のご紹介

『チョルノブイリの火ー 勇気と痛みの書』

全 412 ページ 1998 年ウクライナで出版 日本語訳 河田いこひ

製作 風媒社 3,000 円(送料込み)

この本を、このような状況下でお知らせすることになるとは思いもよりませんでした。チェルノブイリ(ウクライナ語で「チョルノブイリ」)の事故より 12 年後に出版されたこの本は、今、まさに福島で放射能と戦っている方たちと同じ作業…原発職員や消防士、事故後の処理作業、治療にあたり自ら被曝した医師など…をされた方たちの証言集です。風化を許さない放射能の恐ろしさが、とつとつと語られています。本をご希望の方は、事務局までご連絡ください。



<原書(左)と本書(右)>

### <スタディーツアー中止のお知らせ>

東日本大地震・福島の原発震災が起こり、国内の対応が急務となったため、急遽スタディーツアーを中止することになりました。参加予定でいた方々のご希望に沿えず、申し訳ありませんが、あしからずご了承ください。

## 編集後記

☆ 首都圏が計画停電を実施していても、名古屋では節

電の必要はないという。かえって、経済の妨げになるらしい。そうだろうか。浜岡原発分くらいの節電をやったのけたら、一気に脱原発が加速し、長い目で見たら日本の発展につながるかも? (佳)

☆ 冗談で、「日本で原発事故があったら、喜んで支援をするよ」って、今までの支援に感謝を込めて話していたジトミルの友人達…まさか本当に支援をしてもらうことになっちゃうとは…。狭い日本に 54 基もの原発。「能力の過信」「絶対大丈夫」なんてありえないことだね。 (美)

☆ キエフのゼムリヤキからは「早くこちらへ避難しておいで！」とメールをくれる。今私たちは同じ原発被災者。その一言がこんなに励みになるとは、やはりわかっていなかった。私たちの絆は一層強まった。(京)

☆ ウクライナの仲間達から励ましの言葉を受け取り、涙が止まらない。同じ悲しみを共有する立場となってしまった事、そして、それを防止できなかった事…。今まで、何度も何度も警鐘を鳴らしてきたつもりであったが、結果として失敗に終わってしまった。原発推進が叫ばれる背後には、巨大な利権が存在する。彼らのプロパガンダを見抜く目と心が必要である。地球温暖化の犯人は、人工の二酸化炭素ではない。911 同時多発テロの犯人は、アルカイダではない。NGO の活動家もまた、彼等の手の平で踊らされているのではないか? 「地震や津波は、人工的に引き起こすことができる」とこの検証も不可欠であろう。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX(052)871-9473

